

横浜クリニック 地域医療連携室レター

平成25年 12月
第6号

神奈川県立歯科大学附属横浜クリニック地域医療連携室(045-313-5047)

2013年を振り返って

クリニック院長 井野 智

本年3月12日、地元歯科医師会と地域医療連携について一致協力して推進していく旨の『合意書』を取り交わすことができました。設立以来、信頼関係の構築に向けて日々努力してこられた関係各位のご努力に、心より感謝申し上げます。また、7月には、多数の医療関係者のご出席を頂戴して第1回地域医療連携報告会・懇親会を開催することができ、設立11周年目にして、新・横浜クリニックの船出にふさわしいイベントとなりました。

さて横浜クリニックは、昨年の上部・下部内視鏡システム導入（消化器内科）に続いて、全身撮影用X線CT装置（2列）も、最新の低被爆で高画質（16列）に切り替え導入して、医科・歯科の健診部門の強化を図っています。また、患者様用トイレにウォシュレットの設置、高速道路側に面する病室（個室）で快適に過ごしていただけるよう絨毯の敷設・液晶テレビへの入れ替えなど、患者様サービスに繋がるものは積極的に手掛けてまいりました。診療面では、本年4月に赴任された矯正科・不島健持教授を中心に成人外科矯正治療の強化、小児・障がい者歯科における全身麻酔管理下の診療体制強化、消化器内科での内視鏡治療（入院）や眼科での白内障手術後の日帰り入院など、患者様のニーズに柔軟に対応できる体制づくりに取り組んでおります。また、9月からは、横浜クリニックの『顔』ともいえる受付・会計スタッフとして多数の新人を迎え、自ら選定した新ユニフォームに身を包み、チーム医療の充実化に向けてスタッフ一丸となって奮闘しています。

間もなく、私が院長として赴任して2年が経過します。来年は、スタッフの皆さんと共に努力した成果が確実に表れ、地域の皆さんにより一層愛されるクリニックへ、そして更なる飛躍のできる午年になることを祈願しております。



この号の内容

- 1 2013年を振り返って
- 2 公開講座のご報告
- 3 次回公開講座のお知らせ
- 4 大腸ファイバーについてご報告
- 5 内視鏡検査室からのお知らせ
- 6 地域医療連携室お知らせ



『常緑ヤマボウシ ホンコンエンシス月光』
クリニックの出入り口に佇んでいます。
左の写真は5・6月頃の白い花を咲かせた時、
右の写真は赤い実が成った現在の様子です。

平成 25 年の公開講座は下記に示す 3 講座を主催致しました。講座の後の質疑応答も参加していただいた受講者の皆様から活発な質問を頂きました。

平成 25 年 9 月 28 日 『白内障手術とその社会的貢献度について』

65 歳以上の高齢者のうち軽度認知症と呼ばれる予備軍が約 400 万人います。適切なケアを受けずに放置すれば 5 年後には半数の人が認知症に進むようですが、白内障手術により認知症を改善できることが報告されています。白内障手術は視機能を改善し QOL（生活の質）を向上させることができます。



また、白内障手術は、一般的に“簡単な手術”と考えられていますが、安易な手術ではありません。現在の白内障手術方法や手術の適応・合併症などについて述べました。

平成 25 年 10 月 26 日 『あごの発育と歯並びについて』

口唇が閉じにくい、うまく物が飲み込めない、などお口を上手に使いえないお子様が増えております。

本講座では、お口の機能の問題が歯並びやアゴの発育とどのように関わっているかについてお話ししました。



平成 25 年 11 月 9 日 『肥満と消化器疾患について』

最近日本および世界で肥満の増加が大きな問題となっています。肥満は虚血性心疾患、脳梗塞などの血管の病気だけでなく逆流性食道炎、肝臓癌、大腸癌などとも関連があり、これら消化器疾患についてお話ししました。



2013年8月より神奈川歯科大学附属横浜クリニックの耳鼻咽喉科診療担当医師として赴任された荒木康智特任講師が平成26年1月25日に公開講座を担当致しますのでご紹介致します。

耳鼻咽喉科医師紹介

荒木 康智 特任講師 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会 専門医
一般社団法人日本がん治療認定医機構 がん治療認定医



荒木先生は当クリニックの特任講師をされていますが、一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院耳鼻咽喉科慶應義塾大学病院耳鼻咽喉科の医師として診察治療に携わっております。

平成26年1月25日 『アレルギー性鼻炎・花粉症の新しい治療』

講演者：荒木康智 医師

会場：横浜クリニック 7F 大会議室

参加費：無料

申込：事前申込不要 どなたでも当日直接会場へお越し下さい

問合せ：神奈川歯科大学附属横浜クリニック 地域医療連携室

もうすぐ花粉症の季節がやってきます。アレルギー性鼻炎や花粉症の有病率は、人口の約4割とも言われ、まさに国民病とも言えます。今までは薬物による治療が中心でしたが、近年新しい治療が次々と実用化されています。

一つ目は、スギ花粉症に対する「舌下免疫療法」です。スギのアレルゲンエキスを舌下に投与する方法で、欧州ではすでに広く行われている治療です。従来注射による免疫療法と比べて副作用が少なく、家庭でも施行できるというメリットがあります。今までは高額な自費診療で行われておりましたが、近々、薬事法上の認可がなされ、保険診療で治療できるようになります。費用負担が低減することで、広く普及することが期待されています。

二つ目は、通年性アレルギー性鼻炎に対する「後鼻神経切断術」です。鼻炎の症状を引き起こす自律神経の細い枝（後鼻神経）を、内視鏡と細い針を用いて切断する手術で、本邦で徐々に広まってきています。薬物で改善しない難治性の鼻炎に対して、長期的に劇的な効果が期待できます。技術の進歩と共に、日帰り手術や短期入院での手術が可能な病院も出てきました。

薬物治療も負けてはいません。新しい内服薬や点鼻薬の開発も進んでいます。花粉症に対する季節前投与の有効性のエビデンスも確立してきました。知識と備えがあれば、アレルギー性鼻炎や花粉症の症状を押さえ込むことも可能です。憂鬱な花粉症の季節が近づきましたが、今年は前向きになって、少し早めに受診を考えてみませんか。

厚生省の指標、国民栄養調査および運輸省の資料によると1950年から1990年にかけて自動車の保有台数とエネルギー摂取量に占める脂肪の割合が右肩上がりに増加し、糖尿病患者数が右肩上がりに増加しています。これは身体活動の減少と脂肪摂取の増加で肥満となり、2型糖尿病患者が増加していることを示しております。地域がん登録による大腸癌の罹患率は男性の場合1975年における70歳代の大腸癌発症は人口10万人あたり70人台ですが、1995年における同じ年代の大腸癌発症は250人以上となっており、20年間で3倍となっています。女性の場合も1975年における70歳代の大腸癌発症は人口10万人あたり50人台ですが、1995年には同じ年代の大腸癌発症は150人であり、3倍になっています。大腸癌の発生を抑制する因子として身体活動の増加があげられています。身体活動および運動は厚生労働省が推進している健康21の方策とも合致し、2型糖尿病やメタボリック症候群の患者の減少につながります。大腸癌は癌が粘膜にとどまっていれば5年生存率が95%であり、筋層までの浸潤であれば90%です。大腸癌は早期診断、早期治療が大切で、症状が出ていない時期に発見すれば内視鏡治療で済むことも多々あります。私どもは大腸癌で手遅れにならないように役立てることを願っております。

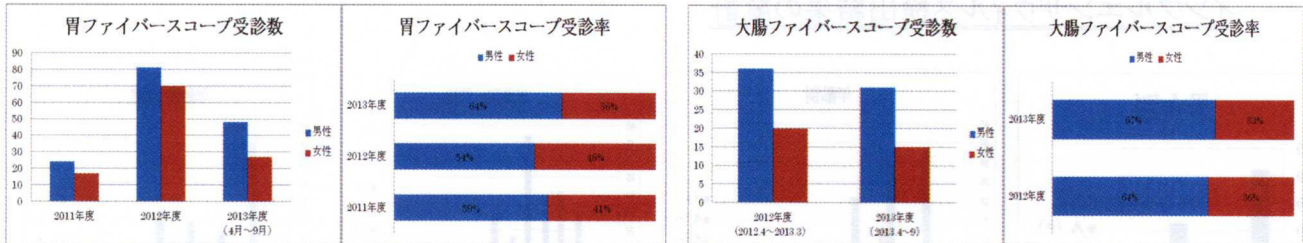


内視鏡検査室を立ち上げて(2012年5月中旬から2013年9月下旬)約1年余りが経過しました。

その実績を下記のグラフに示します。

上部消化管内視鏡

下部消化管内視鏡



上部消化管内視鏡検査は、2011年に比較して実績を増加させる事が出来ました。

下部消化管内視鏡検査については、2012年度に比較して2013年度は年度途中に関わらず実績をあげました。

次に実際検査を受けた方のご感想を載せました。

<上部内視鏡>

- ・H24年 12月 46歳 男 苦しい時の対処法を教えてくださいました。
- ・H25年 1月 26歳 女 現在の状況を看護師さんが教えてくださいましたので、かなり気が楽でした。麻酔も思ったより早く終わり、あまりの早さに驚きました。
- ・H25年 3月 71歳 女 初めての検査で気持ち的に緊張しましたが、意外と短時間で済みました。スタッフのお力添いもあり安心感がありました。
- ・H25年 4月 31歳 男 最初は苦しい感じがしたが、慣れれば特に問題ないと思った。
- ・H25年 6月 64歳 男 スムーズな検査だった。
- ・H25年 8月 55歳 女 検査は5回目ですが、前回と同様に楽でした。検査結果を先生からすぐ聞けるので安心しました。
- ・H25年 8月 58歳 女 のどを通る時に苦しかったです。 はじめて検査しましたが、説明もわかりやすく、皆さん親切で安心して検査を受けられました。

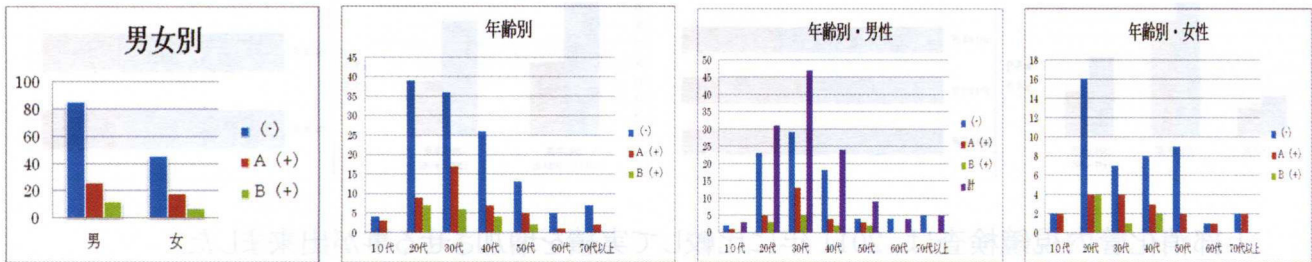
<下部内視鏡>

- ・H24年 12月 30歳 女 検査時間も早く終わり、予想していたよりも楽でした。
- ・H25年 1月 64歳 女 皆様とてもご親切で、不安だったのですが安心しました。
- ・H25年 3月 44歳 男 以前の大腸カメラは苦しい印象があったので、小さなポリープがありながら長年避けていました。今回は思っていたほどはきつくありませんでした。
- ・H25年 4月 75歳 女 皆様がとても親切で、個室を用意していただいて本当に安心して検査が受けられました。 次回の検査もまたお願いしたいと思います。
- ・H25年 5月 75歳 男 下剤の飲み方の説明もわかりやすく、早く検査も終わり、2回目で楽でした。みんな親切でうれしかった。優しい。
- ・H25年 5月 65歳 男 初めての検査でしたが、下剤の飲み方の説明もわかりやすく、検査も早く終わり、楽でした。親切にして頂いて大変有り難うございます。次は胃カメラにいきます。
- ・H25年 7月 34歳 男 初めてでしたが、看護師さんの説明もわかりやすく、思ったより早く終わりよかったです。
- ・H25年 8月 42歳 男 2Lの下剤を飲むのは大変だが、説明がわかりやすく、予想していたほど苦にならなかった。検査はすぐ終り楽だった。

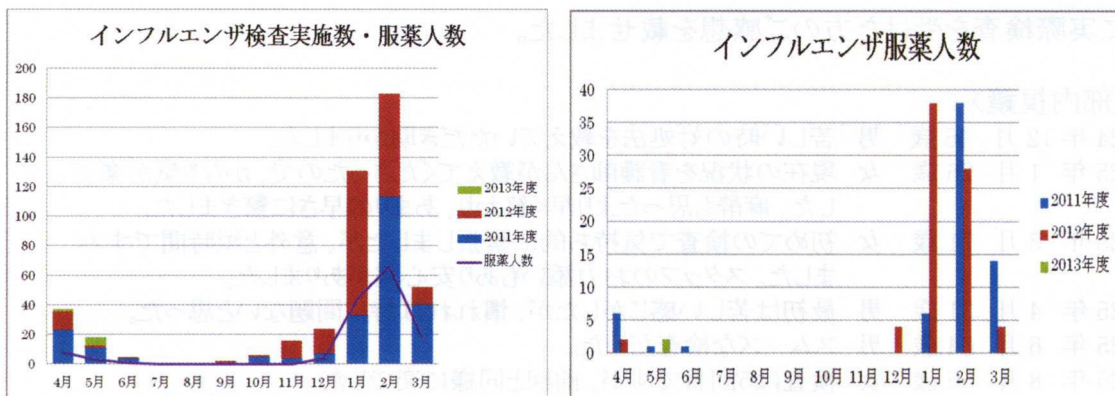
インフルエンザに関する統計

インフルエンザのシーズンになりました。過去2年のインフルエンザウイルスの検出検査結果・実施状況及び服薬の状況をまとめてみました。

インフルエンザウイルス検出結果の統計



インフルエンザウイルス検出検査及び服薬状況 2011年4月～2013年9月 統計



神奈川県歯科医師国保契約施設について

2013年10月3日より神奈川県歯科医師国保の契約施設になりました。契約施設としての補助金の手続き等が等クリニックで行えるようになりましたので、今までご不便をかけていたことが解消されるようになりました。これを機会に歯科医師の諸先生の皆様により良い健康診断を提供するつもりでありますので、今後よろしくお願い致します。

尚、院内職員などの健康診断についてのご相談などありましたら、地域医療連携室にご連絡下さい。



神奈川県歯科大学附属 横浜クリニック
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 3-31-6
TEL:045-313-0007(代) FAX:045-313-0027(代)

Mail:chiiki-irenkei@kdu.ac.jp
<http://www.hama.kdu.ac.jp>

